

# 日本NP学会の 名称について

井手上龍児<sup>1)</sup>・青柳智和<sup>2)</sup>

1) 川崎市立多摩病院 看護部, 2) 水戸済生会総合病院 総合内科診療看護師

日本NP学会の前理事長である、草間氏は「診療看護師 (NP)」の名称に至った経緯の中で、診療看護師 (NP) の歴史を踏まえ、その名称に至った経緯を詳細に記載しており、診療看護師 (NP) の名称は非常に十全な理由であるにとらえることができる<sup>1)</sup>。現時点では、本邦における診療看護師 (NP) は、国家資格ではないものの、診療報酬の獲得や国家資格化へのステップとして、着実に進歩している。本邦の各施設で、日本型 Nurse practitionerとして勤務している者の多くは、「診療看護師 (NP)」の名称が一般化しているものと推測される。しかし、本邦における、日本NP教育大学院協議会のNP資格認定試験を合格したものが、診療看護師 (NP) として勤務するにあたり、各所属施設での名称における疫学データは、筆者の知る限りではない。例えば、国立病院機構ではJNP (Japanese nurse practitioner) と呼称されている。藤田医科大学では、FNP (Fujita nurse practitioner) と呼称されているようである<sup>2)</sup>。他にもインターネットで公表しているだけでも、各施設に応じた独自の名称を用いていることがわかる。各施設で、診療看護師 (NP) の呼称が多少異なる事については、国家資格化されていない事も理由の一つにあるものと推測される。

今後、診療看護師 (NP) という名称を、一般社会へ流布させるためには、本邦の勤務施設での名称を学会として提唱する必要があると思われる。ただでさえ、少ない診療看護師 (NP) が施設によって呼称が異なるようであれば、国民や関係者への混乱の原因となる可能性がある。例えば、日本神経学会は受診者や国民の理解を促すために、2018年3月より標榜診療科を「神経内科」から「脳神経内科」へ変更している<sup>3)</sup>。このように、非医療者を含めた世間の理解を助けるためにも、学会単位

での名称変更が必要とされている。

名称は特に、広く一般に流布していないものであれば、より重要である。ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタインが提唱した、言語ゲームからもその重要性がわかる<sup>4)</sup>。たとえば、看護師という名称は成人であれば、多くの者が知っているものと推測される。しかし、同じ「看護師」でも、医療者の「看護師」の概念と非医療者の「看護師」の捉え方はおそらく多少なりとも異なっている<sup>5)</sup>。「診療看護師 (NP)」が捉える「看護師」もまた、同じ医療者でも多少異なるものと思われる。

UMIN (University Hospital Medical Information Network) の学会情報で、2018年11月時点で、医療系の学会を検索すると、1177もの学会ならびに学術集会在がヒットする (日本NP学会はUMINのデータには含まれていない)<sup>6)</sup>。1177の学会のうち、「看護」で検索すると、46学会がヒットしたが、学会の名称として略語を用いているものは、看護を含むものでは皆無であった。略語を学会の名称に用いているものは、極めて少ないが、例えば日本AS学会等の名称を持つものもあった (現在は、日本血管血流学会へ統合されているようである)。

非専門家であるものが、異なる学会の名称かつ略語を用いた名称を見聞きした際に、その学会がどのような学術組織であるのかを推測するのは困難である。多くの論文の投稿規定が、初出時にはフルスペルを要求していることから、略語を冒頭に用いることが好ましくないことがわかる。草間氏の寄稿にも記載されているが、「名は体を表す」ように、呼称は極めて大切である<sup>1)</sup>。これらの理由より、「日本NP学会」という名称を医療者や非医療者の方が見聞きした際に、学術組織の中身を類推するのは困難が予測される。「診療看護師 (NP)」が現

時点で最も好ましい名称であれば、学会の名称も同じとすべく「日本診療看護師（NP）学会」の方がNPを知らない者への理解を助けるのではないだろうか。診療看護師という名称を知らない者にとっても、日本語として「診療看護師」という名称を理解する事は可能である。一方、「NP」を日本語として理解することは、困難である。NPという名称が通用するのは、NPを知っているものだけの「ジャーゴン（jargon）」である可能性がある。

おわりに、現時点ではマイノリティな集団である診療看護師（NP）の国家資格化等への進歩には、一般の国民の理解が必要である。国民の理解をより容易なものとするためにも、本邦で勤務する診療看護師（NP）の名称の統一と、学会としての名称を再考する時期に来ているのではないだろうか。

## 使用ソフトウェア

Microsoft® Word for Mac ver. 16.16.3

## 利益相反

筆頭著者ならびに共著者において、規定された利益相反はない。

## 文献表

- 1) 草間朋子:「診療看護師（NP）」の名称に至った経緯. 日本NP学会誌, Vol.2 No1: 2018.
- 2) 松山伴子 佐藤潤 草間朋子: 診療看護師の就労環境等の実態調査－診療看護師の所属部署に着目して－. 看護科学研究, vol.15: 7-14, 2017.
- 3) 一般社団法人 日本神経学会ホームページ. [https://www.neurology-jp.org/news/change\\_name.html](https://www.neurology-jp.org/news/change_name.html) (2018年11月7日閲覧)
- 4) 中村昇: ヴィトゲンシュタイン「哲学探求」入門. 教育評論社, 東京, 80-174, 2014.
- 5) 三浦まゆみ 中村令子 久保よう子: 入院患者家族への看護師の対応についての家族と看護師の認識の比較. 家族看護学研究, vol.13: 124-131, 2008.
- 6) UMIN. AC. UMIN学会情報ホームページ. [https://center6.umin.ac.jp/gakkai-bin/gakkai/gakkai\\_list?kubun=10](https://center6.umin.ac.jp/gakkai-bin/gakkai/gakkai_list?kubun=10) (2018年11月7日閲覧)